

第二回

平成二十七年 度

宇都宮短期大学附属中学校

入 学 試 験 問 題

国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が三問で、問題文は一ページから七ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があつたら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があつたら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕

次の言葉に関するそれぞれの問いに答えなさい。

問い1 次の——線部の漢字の読み方が他とちがうものを、下のア～エから選んで、記号で答えなさい。

- (1) ア 復興 イ 閉口 ウ 鋤山 エ 工面
- (2) ア 経路 イ 絶景 ウ 形相 エ 敬意
- (3) ア 高層 イ 深窓 ウ 倉庫 エ 首相

問い2 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- (1) 胃のイシヨク手術を行う。
- (2) 公園にトホで向かう。
- (3) ジャクサンセイの薬品。
- (4) 新聞を采ねる。
- (5) 健康を保つ。

問い3 次の慣用語の□にあてはまる言葉をあとから選んで、漢字に直して答えなさい。

- (1) □に乗る (思い通りになって調子づく)
 - (2) 火の□ (生きていくための生活費が少ないこと)
- 〔ズ モト イタダキ クルマ〕

問い4 次の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

- (1) 遠 (2) 慣

問い5 次の——線部の主語を~~~~線部ア～エから選んで、記号で答えなさい。

- (1) ア~~~~ イ~~~~ ウ~~~~ エ~~~~
 僕たちは タクシーで おばあさんの 家に行つた。
- (2) ア~~~~ イ~~~~ ウ~~~~ エ~~~~
 私の 友だちも 先生に なりたいと いう 夢を 持っている。

〔二〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ナイチンゲールの人生を大きく変えることがありました。クリミア戦争です。一八五四年のことですから、ナイチンゲール三四歳のときです。イギリスの陸軍大臣から直々に、「クリミア戦争で傷ついているイギリス兵の治療のために、看護団を率いて現地に赴いてほしい」という要請を受けます。

イギリス軍に不利な状況が伝えられる中、ナイチンゲールはロンドンを発つときからもう、イギリス国民の英雄でした。

- Ⅰ ところが現地の陸軍病院に到着すると一転、空気は冷ややかなものになります。
- Ⅱ 軍医たちは、ナイチンゲール以下やつてきた看護団を徹底的に無視したのです。
- Ⅲ 「まだ若くてきれいな女性が先頭に立ち、年配の看護師たちを引き連れ、傷ついた兵士の治療のために戦地に赴く」といつて、国民の熱狂的な支持を受けます。

(注1) 憤慨＝ひどく腹をたてること。

(注2) 治癒＝病気が治ること。

(注3) 喚起＝呼び起こすこと。

(注4) 旧弊＝古いしきたりの害。

(注5) エビデンス＝もとなる理由。根拠。

(注6) 本末転倒＝根本とそうでないものが、さかさまになること。

問い1 I、IIIの文を意味が通るように並べかえなさい。

問い2 () A、Dに入れる言葉の組み合わせとして適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 「A とにかく B 黙々と C あまりにも D とうとう」

イ 「A とにかく B 黙々と C とうとう D あまりにも」

ウ 「A 黙々と B とにかく C とうとう D あまりにも」

エ 「A 黙々と B とうとう C あまりにも D とにかく」

問い3 ① ナイチンゲールは彼女たちを抑えます。とありますが、その理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中からアは四字、イは二字で書きぬきなさい。

看護師の仕事は、医師との **ア** であり、医者 **イ** を得られなければ、成果を挙げることはできないことを、ナイチンゲールはよく知っていたから。

問い4 三か所ある **(1)** には、どれも同じ言葉が入ります。その言葉を本文中から二字で書きぬきなさい。

問い5 **(2)** にあてはまる最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 寄付集め、医療器具の整備
- イ 窓のある病舎、空気の入換え
- ウ 不足している薬品のリスト作りと取り寄せ
- エ 衛生に関する正しい知識を持った看護師の採用

問い6 ② 彼女は医療の常識といいますか、看護の常識を変えました。とありますが、これにあてはまらないものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 人々に呼びかけて寄付金を集め、看護学校を作った。
- イ ビクトリア女王に、軍の病院を改善することの必要性を伝えた。
- ウ なかなか陸軍病院の改善計画が受け入れられないため、世の中にくつたえた。
- エ 医者たちとの信頼関係を築かなければ、成果を上げることができないことを発見した。

問い7 **(3)** にあてはまるものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 乳幼児の死亡率が高くなる前に、あらかじめ病院を建設しておくべきである。状況が悪化してから声高に改善策を説いても、手遅れになってしまう
- イ 子ども病院をつくる前に、大人のための病院をしっかりと整備し体制を整えておくべきである。そして、その方法を取り入れれば、効率よく子ども病院も運営できる

ウ 子どもたちの栄養状態など生育環境があまりにも悪いから、致命的な病気にかかる。生活環境を改善することが先で、そこに手を入れないで、子供病院をつくっても意味がない

エ あまりにも悪い生育環境のために子どもたちは致命的な病気にかかっているが、改善は簡単ではない。まず、科学の方面を整備して、一刻も早く効果的な新薬を開発することが、子ども病院をつくることより先決だ

問い8 ③ 白衣の天使とありますが、これを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から六字で書きぬきなさい。

ナイチンゲールをはじめとする、看護師たちの [] をたたえた言葉

問い9 本文中の【 】の中から間違つて使われた二字の熟語を一つぬき出し、次の例のように正しい漢字に改めなさい。

(例) 文野 → 分野

〔三〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学一年生の「岡田カナナ」と「片瀬重矢」は、バドミントン部に入部し、一年が経とうとしていた。三年生が引退した今、団体戦のチームを新しく編成することになった。

「全員いるな。きょうは大事な話をする」

ファイルを手にした先生は、男女入り混じったバドミントン部員たちを見わたした。ラケットを抱いて、カナナは重矢と並んだ。

「なんだろうね」重矢がつぶやく。

「うん」カナナは、規則正しくラケットにはられたガットを、ギターの弦を鳴らすようにはじいた。

「ええと……みんなは四月から三年生と二年生になる。五月の終わりにある春の大会では、いよいよ主役だ。そこで、チームをきちんと編成したい」

みんなの顔に (1) が走った。高窓から入る西日が、床に反射している。

「男子は二年生全員で二チームだ。ダブルス二組は、今のままでいく。問題は、女子なんだ」

「一年生のペアにもう一組入ってもらわなければならない。それと、シングルスも一年生からひとり出てもらうことになる。個人戦は、二年生が中心だ。秋からは出ていこう。まずは団体だが、どうだ？」

横一列に並んだ四人の一年女子が、互いに顔を見合わせた。梶ちゃんと桂がくつついて、肩を寄せ合った。

「梶と木下桂でペアか？ もう一組は、岡田カナナと片瀬重矢か」

重矢とペアを組む？ カナナは不満だった。強いペアを作るなら、カナナと梶ちゃんが組むのがいはずだ。

「先生、待ってください」カナナがいった。① 技術が今ひとつの重矢と組めば、強いペアにはなれない。

「重矢とカナナって仲よしなんだもの、いいじゃない」梶ちゃんが言った。

「でもね……」カナナはこぼれにまつた。

② 重矢が何か言いたそうな顔でカナナを見つめた。カナナはそのとき、気がついた。自分は重矢と組むことがいやなんだ。重矢はそんなカナナの気持ちを感じたのだ。それは、ふたりの間に起こる、小さな春の (2) のはじまりだった。

「まあ、いい。ダブルスは相性もあるからなるべくみんなで納得して決めたい。しばらく考えてくれ」

③ 原先生はファイルに何か書くと、髪をかきあげた。

「じゃあ、素振りからはじめよう。ひろがつて」

みんな円をえがいてひろがつた。

「一、二、三……」

基本のストロークを十回ずつやっつけていく。原先生がまわってきて、カンナのとおりでラケットを振っている亜矢に言った。

「片瀬、このあいだのテスト、よかったぞ。やられたな」

「やられた」というのは亜矢が数学で満点をとったことだ。原先生はにこつとすると、むこうへ行ってしまった。カンナのなかに、自分と亜矢を比べる気持ちがおこつた。その気持ちを振りきるようにラケットを振つた。

フットワークの練習の後、シャトルを使いペアになっているいろいろなストロークをひとつおとり打つ。いつものようにカンナは亜矢と打ち合う。カンナはシャトルの動きに集中できていなかった。カンナと亜矢のドライブショットのリズムが乱れた。

（私だつてがんばっている）シャトルにこめられた亜矢の思いが飛んでくる。

④ 「じゃあ、もつとしつかり打つてよ」カンナは、その思いを打ちかえす。

ことはをかかわらず、ひたすら打つ。カンナは手首の力が強い。しだいにカンナのショットの勢いが強くなり、亜矢のショットがネットに近いところへくるようになってきた。いつもそうなのだ。亜矢のほう力が負けしける。

「つぎ、ドロップショット！」原先生の声がひびく。

体育館の外は風が強い。バスケット部のドリブルをする音やシャトルがラケットにあたる音を打ち消すように、ときおりドーンと音をたてて、風が吹きつける。

「片瀬！」

原先生が亜矢のところへ行く。カンナはシャトルを素手で止めた。

「ドロップショットのときの打点は、もう少し前にしろ。打点が高いとネットより高いところに落ちて、たたかれるぞ。おい、岡田、あげてくれ」

カンナは原先生に向けて高いショットをあげた。先生は振りかぶるように力をぬいてシャトルにさわった。シャトルはネットぎりぎりにふわっと落ちてきた。こういう球は打ち返せない。

「わかったか？ やってみる。岡田、片瀬にあげてやってくれ」

カンナは高く打ちあげた。身長の高い亜矢は、背のびして打つた。

⑤ 亜矢ができないことを自分はできている。たぶん原先生にもそう思われている。カンナはいい気分だつた。

カンナはひとつおりのショットをなんなくマスターした。どうして亜矢ができないのか、カンナにはわからなかった。おまけに、亜矢は動きに敏しやうさが足りない。バドミントンの力では明らかに自分のほうが亜矢より勝っている。亜矢とペアを組んだら、梶ちゃんたちには勝てない。

練習が終わって、更衣室で着がえているときも、カンナは気まずい思いでだまつていた。

⑥ 桂ちゃんと梶ちゃんは、カンナや亜矢がそこにいることを忘れて笑い合っている。こんな瞬間がこれまでも何度かあった。これまで、そのことをあまり気にとめてなかったけれど、カンナは今日、ふたりがにくらしく思えた。

(山崎玲子「風のシャトル」から)

(注1) ガット＝ラケットの網。

(注2) ストローク＝ボールを打つこと。

(注3) フットワーク＝足の運び方。

(注4) ドライブショット＝ネットすれすれに打ち返すこと。

(注5) ドロップショット＝相手のシャトルの勢いを止めてネット際に落とすこと。

(注6) 打点＝ボールを打つ位置。

問 1 (1) にあてはまる言葉を次から選んで、記号で答えなさい。

ア いなずま イ 緊張 ウ 虫ず エ 痛み

問 2 ① 技術が今ひとつの亜矢と組めば、強いペアにはなれない。とあるが、この時の「カンナ」が「亜矢」に対して抱いていた気持ちをあらわす慣用句として適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 腹をくくつている イ 手をこまねいている
ウ 舌を出されてしまう エ 足を引っぱられてしまう

問 3 ② 亜矢が何か言ったそうな顔でカンナを見つめた。とありますが、この時の「亜矢」の「言った」かつたこととして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 「本当は仲良くないこと、はつきりとみんなに言えよいに」
イ 「カンナとダブルスを組めてうれしい！これからも練習をがんばるから」
ウ 「下手で弱い私と、できればペアを組みたくないと思うのが本音だよ」
エ 「自分だって上手じゃなくせに、何で私だけ責められなきやいけないの？」

問 4 (2) にあてはまる言葉として適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 嵐 イ 光 ウ 桜 エ 香

問 5 ③ 原先生はフアイルに何か書くと、髪をかきあげた。とありますが、この時の「原先生」の気持ちとして適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア これまで気づかなかつた「カンナ」と「亜矢」の力の差を感じ、自分の指導方法を反省している。
イ 「カンナ」と「亜矢」のぎくしゃくとした雰囲気を感じ、ダブルスのペアをどうしようかと困っている。
ウ 「梶」と「木下」はいいペアになると確信しているが、「カンナ」と「梶」も組ませてみたいと思っている。
エ 勝つためには「カンナ」と「梶」を組ませたいが、「木下」をどのように説得したらよいか考えこんでいる。

問 6 ④ その思いとはどの「思い」をさしますか。本文中の~~~~ア〜エから選んで記号で答えなさい。

問 7 ⑤ カンナはいい気分だつた。とありますが、その理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中からアは二字、イは八字で書きぬきなさい。

ア は負けたものの、イ では自分の方があつたと確信しているから。

問 8 ㉔ これまで……ふたりがにくらしく思えた。とありますが、その理由として最も適当なものを次から選んで記号で答えなさい。

- ア 今まで以上に、ふたりが仲よしふりをみせつけてきたから。
- イ ふたりが、先生に陰で頼みこんでペアにしてもらったことが分かったから。
- ウ ふたりが、もうすでにチームの中心になっただかのように振るまっているから。
- エ ダブルスを組む相手のことで悩んでいる自分たちを、ふたりが全く気にはしやいでいるから。